

## 2013年 新年賀詞交歓会ご挨拶文

平成25年の新年を迎え、謹んで年頭の御挨拶を申し上げます。会員の皆さまにおかれましては、平素より当協会にお寄せいただいておりますご協力とご支援に対しまして、厚く御礼を申し上げます。

さて、日本の経済状況は、今年の総選挙後、新政権に対する期待感もあり、日経平均株価は一万円台を回復、更に為替相場は円安傾向が続くなど、明るい兆しがうかがえます。



(一社) 日本陸用内燃機関協会  
会長 菱川 明

しかしながら、直近の政府経済報告の中では、欧州債務危機などの問題が景気低迷を招き、これが日本経済の景気を下押しするリスクとなる見方が示されており、今後も予断を許さない状況が続く見通しです。

世界経済についても、減速傾向が見られながらも成長を続ける中国経済や新興国市場の拡大に期待がもてるものの、先に申し上げたような欧米の景気低迷の懸念があり、楽観できない状況です。

このような状況の下、当協会が集計しています平成24年1月から10月までの陸用内燃機関の国内生産実績、輸出実績、及び海外生産台数をみてみますと、ディーゼルエンジンの国内生産は、対前年比1.3%増加の130万台、ガソリンエンジンの国内生産は、19.2%減少し280万台となっております。

輸出台数を見ますと、ディーゼルエンジンは対前年比5.4%減少の68万台、ガソリンエンジンも対前年比6.4%減少の199万台となっております。

海外生産台数は、1月から9月の集計ですが、ディーゼルエンジンの生産は略前年並みの31万台、ガソリンエンジンの生産は対前年比9%増加の772万台となっております。

統計の数値を見ますと、ディーゼルエンジンの国内生産台数は対前年比1.3%増加し、輸出台数は対前年比5.4%の減少、海外生産台数は略前年並みとなっております。これは、輸出が世界経済全体の減速により伸び悩む一方、国内は厳しい経済状況ながらも建設機械や発電機などの国内震災復興需要に支えられているものと思われま。

ガソリンエンジンの国内生産台数は対前年比19.2%減少しており、輸出台数も対前年比6.4%減少しております。しかしながら、海外生産は対前年比9%増加しており、これは、記録的な円高により価格競争が激化し、厳しい事業環境に直面している会員企業各社が、生産を海外へシフトしていることの表れと考えられます。

一方、私どもの手掛ける内燃機関を取り巻く環境も劇的に変化しております。国内のエネルギー政策は転換期であり、エネルギー供給確保のためのポートフォリオをどうして行くかという議論の中で、コージェネレーションシステムを2030年までに2010年比の5倍へ引き上げることが検討されております。

また、これまで以上に、化石エネルギーと再生可能エネルギーをバランス良く活用し、エネルギーの有効利用をしていくことが最重要課題となっており、この中で内燃機関の果たす役割の重要性が高まるものと思われま。

更に、シェールガス革命により本格的にガス燃料の生産量が増加し、ガスエンジンなどに代表される環境負荷の低い内燃機関への注目も高まってきました。

従来のガソリン・ディーゼル機関においても、環境対応が引続き重要課題となっており、中国を代表とする新興国でも環境規制対応の動きが加速すると思われま

まさに世界規模での「環境対応の新時代」への移行が急速に進みつつあるわけですが、このことは、私ども協会にとってもさらなる飛躍の機会と捉えることが出来ます。これまで私どもが手掛けてきた高い信頼性を持つ内燃機関が、環境対応に磨きをかけることによって、更に社会の役に立つものとして見直されてきたことに他なりません。

当協会は、今年で設立 65 周年を迎えます。昭和 23 年 5 月に、業界の発展、技術開発、そして関連する諸製造業界の発展に寄与することを目的として、設立されてからこれまでの間その重要な役割を果たしてまいりました。

昨年は、私が会長就任時に掲げました「環境対応の新時代」「グローバル化の新時代」「協会の組織・運営の新時代」の 3 つのテーマに即して「自主規制の広報と普及促進」「海外業界団体との交流を通じた海外規制情報の把握」「携帯発電機の事故防止のための消費者安全啓発活動」等を進めてまいりました。

本年も引続きこれらテーマに基づいた活動を推進して参りたいと考えておりますので、皆様の御協力をお願い致します。

建設機械・農業機械・発電機などの産業用機械は、我が国のインフラに不可欠なものであり、被災地の復興にも極めて重要な役割を果たしています。その動力源となる内燃機関製造業は、我が国の産業の中核として、今後も活力ある経済社会実現の牽引役とならなければいけないと確信しています。

変化の激しい事業環境下ではありますが、会員各社さまにおかれましては、このような苦境もこれまで培ってきた技術力とたゆまぬ努力で乗り越え、成長と発展を維持・継続されるものと信じております。陸内協としましても、皆さまをサポートしていく責務をしっかりと果たし続けていく所存です。

最後になりましたが、本年が皆さま方にとりまして良い年でありますよう心からお祈り申し上げますとともに、ますますのご発展とご多幸を祈念申し上げ、新年のあいさつとさせていただきます。